

## アジア共同学位開発プロジェクト

高橋 満

アジア共同学位開発プロジェクト

本プロジェクトは、平成 23 年度～平成 27 年度の 5 年間、概算要求特別経費「東アジアにおける国際的教育指導者共同学位プログラムの開発研究」（事業名「アジア共同学位開発プロジェクト」）として実施している。

最終年度となる本年は、これまでの 4 年間の成果及び課題を整理するとともに後継プログラムへいかに連動させていくかを見越して事業を進めた。本稿では (1) 実施体制、(2) 国際共同教育プログラム、(3) 国際ラウンドテーブル、(4) 今後の展望について報告する。

### (1) 実施体制

最終年度は、前年度に開発され運営が開始された Asia Education Leader Course (以下 AELC) の運営を始め、これまでの事業のまとめと終わらせ方を検討し今後へと引き継ぐ体制の構築が求められる。最終年度は、これまでの実施体制を引き継ぎつつ、組織体制をリーダー、サブリーダー、プロジェクト専任教員から構成される推進会議と教職員と事務局からなる全体会議とした。推進会議は随時 (全 14 回開催) 開催しその都度対応が必要な案件を扱い、AELC の運営についても中心的な役割を果たした。全体会議では推進会議の報告を受けプロジェクト全体の方向性や重要懸案事項の検討を行なった。専任スタッフは専任教員 3 名 (10 月に転出した 1 名を含む)、教育研究支援者 1 名、事務補佐員 1 名であった。

### (2) 国際共同教育プログラム—Asia Education Leader Course

平成 26 年度よりアジア教育指導者養成コース (AELC) を創設した。同コースは、東北大学大学院教育学研究科をはじめ、国立政治大学教育学院 (台湾)、国立台湾師範大学教育学院 (台湾)、南京師範大学教育科学学院・心理学院 (中国)、高麗大学校師範大学 (韓国) の 5 大学 6 部局 (連携大学) が共同運営する国際共同教育プログラムである。各大学・部局は、夏季及び冬季の長期休業期間に開催される集中セミナーを順番で担当し、各大学からの参加学生は、アジア諸国で開催される集中セミナーにそれぞれの国から参加する。

本年度は、南京師範大学で Summer Course2015 が、高麗大学で Winter Course2016 が開催された。詳細は事業報告を参照のこと。尚 2016 年 2 月時点で AELC 登録学生は 52 人、Course 修了者は 9 名である。

AEL Course Web サイト <http://www.sed.tohoku.ac.jp/~ajp/aelc/top.html>

### (3) AELC 国際ラウンドテーブル

平成 27 年 12 月 5 日（土）、アジア共同学位開発プロジェクト AELC 国際ラウンドテーブルおよび調印式を開催した。AELC 国際ラウンドテーブルでは、高橋満研究科長の挨拶に続き、各連携大学から AELC の運営状況について報告がなされ、それぞれの実践を通して明らかになった成果と課題の共有が行なわれた。その後のディスカッションでは、各パートナー機関の役割の明確化、学生への情報提供・広報の充実、地域ごとに異なる規則の調整（1 単位当たりの授業時間数、単位認定）、学生への奨学金などの課題について協議した。

AELC は本研究科が進めてきたアジア共同学位開発プロジェクトの終了までを第 1 期として運営されてきたが、協議の結果、今後も AELC を継続することで合意した。ラウンドテーブルでの合意に基づき、AELC の運営に関する協定書の調印式が行なわれた。

### (4) 今後の展望

平成 23 年度から開始されたアジア共同学位開発プロジェクトも最終年度を迎えた。東アジアの有力大学と協働して、国際社会で活躍するリーダー的教育指導者を育成する教育プログラムを開発するという当初の目的は一定程度達成できたと考える。共同教育プログラムとして開発された AELC は AJP 終了後も継続されることが合意され調印を行なった。現時点では共同学位の発行には至っていないものの、東アジアの 6 大学の部局長が共同でサインする AELC Joint Certificate を発行することができた。参加学生の様子を見る限り各集中セミナーで東アジアの学生同士様々な刺激を受けながら人的ネットワークを構築しているようである。修士課程の貴重な時間を同コースに割く意味は思いのほか大きい。少なくともグローバルな時代に活躍しグローバルな課題を様々な視点から捉えなおすこともこれからの教育指導者には求められてこよう。AELC はそこに必要な Knowledge、Attitude、Skill、Practice を身につけさせるものである。

この AELC は、当初より AJP が開発を目指していた 2 年課程の Joint-Degree コースのパイロットプログラムとして位置づけられる。今後も AELC を基盤に、国内の大学のみならず、韓国、中国、台湾の大学など、異なる文化・言語・宗教の生活空間で、他国の学生と切磋琢磨して学び、対立や葛藤、協調を経験しながら心身を鍛え、互いに敬愛し、アジアの共通課題に立ち向かう、国際的教育リーダーを引き続き育成したい。こうしたリーダー的人材育成は、教育学の基礎的専門的知識・技能を修得した学士課程の上に築き上げられるもので、博士課程における高度に細分化・専門化された課程ではできない、修士 2 年課程でこそできる人材育成であると考えている。AJP 終了後も引き続き Joint-Degree コースの設置にむけ研究科を挙げて挑戦を続けたい。

## 平成 27 年度 主な活動状況

月	内 容
4 月	「Asia Education Leader Course」登録生の募集開始。 「Asia Education Leader Course Summer Course 2015」参加者の募集開始。
5 月	
6 月	外部評価委員会開催 ニュースレター（AJP PRESS vol.9）発行。
7 月	「AEL Summer Course 2015 in Nanjing Normal University」開講
8 月	
9 月	
10 月	「Asia Education Leader Course」登録生の募集開始。 「Asia Education Leader Course Winter Course 2016」参加者の募集開始。
11 月	
12 月	AELC 国際ラウンドテーブル及び調印式 － Overview of AJP and AEL Course by Assoc Prof Hideo AMBO (AJP sub-leader) － Report on Summer Course 2014 by TU － Report on Winter Course 2015 by NCCU － Report on Summer Course 2015 by NNU － Preparation of Winter Course 2016 by KU － Roundtable discussion based on Supplement of Understanding － Signing ceremony of Agreement on AEL Course
1 月	ニュースレター（AJP PRESS vol.10）発行。 「AEL Winter Course 2016 in Korea University」開講
2 月	国際セミナー「高等教育の国際化⑩」 World-System Theory And International Student Mobility／陳榮政准教授（国立政治大学・教育学院）
3 月	年次報告書「アジア共同学位開発プロジェクト 実施報告書 2015 年度」刊行（予定）。 ニュースレター（AJP PRESS vol.11）発行（予定）。